

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所が目指すべき事項（人権尊重、能力発揮、地域交流）を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、終礼、その他諸会議において、利用者一人ひとりに対し理念を活かす為には、どのような対応をしていけばよいか、皆で考えている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や諸行事を通して、地域の代表者の方々と地域との交流をどのようにすればよいかを検討している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近接して民家がなく、日常的に声かけ出来る状態ではないが、行事や散歩等で顔を合わせたりした時は、気楽に声を掛けている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に参加するには体力的に無理なこともあり、自分たちのペースで出来る児童公園の草取り・清掃等を通し、地域の人々との交流のきっかけとしている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や諸行事を通して、地域の代表者の方々と地域との交流をどのようにすればよいかを検討している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の機会を通しながら、事業所にある問題点の把握に努め、改善に取り組んでいる。外部評価の意義や目的を職員へ周知している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催し、忌憚のない意見を出してもらっている。会議の議事録は職員や面会に見えている家族の方に内容を確認してもらっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ推進委員と交流したり、町や社会福祉協議会の主催する地域連携のサポート会議に出席し、勉強会を通してのサービスの質の向上や精度への対応を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	折に触れ、地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員間で話し合いを行っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場内専門委員会を通じて得た対策等をミーティングで話し合い、高齢者虐待防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者個々の不満・苦情はその都度聞き、 改善に努めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族が定期的にくられる方にはその都度、 遠方にて来られない方には定期的に又体調が 変化した時に、電話にて細かに報告を行って いる。預っている小口の金銭等については定 期的に家族や本人に報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないが面会時に、家族 との面談の中で意見交換をしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	特に定めていないが、機会あるごとに職員 と様々な問題について話しあっている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	緊急時には対応できる連絡体制をとってい る。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には全ての職員が全ての利用者に対 応できるようにしており、離職時等のダメー ジを最小限にするようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等問わないようにしている。又、職場では職員の特性に応じた役割分担を心掛けており、基本姿勢として、定年まで働いて頂くようにしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部講師による人権教育は行っていないが、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、専門委員会、ケアカンファレンス、朝礼、終礼等を通して行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの経歴、職務能力に応じた年間職務目標を管理者、職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた研修を適宜確保している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町・社会福祉協議会主催のサポーター会議やグループホーム協議会等に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスチェック表によりストレス状況を確認し、状況により面談を行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度により、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときは、まず本人の話しやすい状況や雰囲気を作ることに心掛けている。そのうえで思いや不安をじっくり聞き、本人の置かれている状況を理解するように努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときは、まず家族の話しやすい状況や雰囲気を作ることに心掛けている。そのうえで家族の置かれている状況や困っていることを聞き、今、必要としているものは何か、共に考えていくことに努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所の紹介を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	極力、事前に本人に訪問して頂きゆっくりした時間を過していただけるようにしている。そのうえで本人の意思の下、入居して頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴からできる事や得意な事を見出し、本人が出来る力を発揮できるように支援している。又、一緒に食事をしたり、調理をしたりして共に生活を送ることが出来るようにしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた際、本人の様子や日常の出来事、身体状況等を報告したりして情報の共有に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	”家族の最も大事な人を預っている”という基本的な考え方にたち、職員は双方を支える立場として、お世話させて頂くことを常に心掛けている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に参加していた地域の行事等に参加したり、電話や便り等で馴染みの人達との関係が途切れないように支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	本人の意思を尊重しつつ、居室での引きこもりが無いよう、食堂や和室、廊下やソファ等で他の利用者と過ごす時間を増やしたり、皆で音楽を聴いたり、本を読んだり、ゲームをしたりして、共に過ごすことが出来るよう支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり、関連施設へ転居された後も、面会に行ったりして継続的な関わりをもち、よりよい人間関係を保っている。		

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の生活歴、職歴、病歴、生きてきた足跡等を見出し、本人の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るよう心掛けている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの品物、アルバム等を手掛かりにして、本人や家族との話合いの中からこれまでの生活習慣や暮らし振りを確実に把握できるよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼、終礼、ケアカンファレンス、介護記録等を通し、利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を全職員で情報交換をしながら把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望をまず聞き入れ、それに基づいて職員間で話し合い、様々な意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、必要に応じ、本人、家族、必要関係者と共に介護計画の見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子、ケアの実践状況、ADL（日常生活動作）、気づき事項等確実に記録するようにしている。又、職員間にて朝礼や終礼を通して情報を共有化しながらケアの実践や見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に応じて家族と相談しながら、早期の病院受診や定期受診を行い、安全で安心した生活が送れるよう心掛けている。又、利用者の要望に応じ、買い物（個別ショッピング）、バスハイク等にも応じれるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町主催の文化祭への作品の出展、書道、折り紙、理美容等、多くのボランティアの方々に支えられながら活動を行っています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向があれば、それに沿えるように心掛けている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や家族の意向があれば、それに沿えるように心掛けている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが入居後も本人にかかりつけ医があれば、基本的には、継続的に医療が受けられるようにしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医（精神科）に、必要に応じて相談に乗ってもらい、治療を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員や協力病院の看護師と連携を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、病院側に本人の普段の状況や特徴等を伝えたり、又、本人を励ましたりしながら早期退院に繋がるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、今後の方針について主治医や家族と話し合いをし、結果を職員間で共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の今後の方針については、家族、主治医と連携を取りながら対処している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は、本人の使い慣れた道具や馴染みの品々を持ってこれるようにし、環境の変化に伴うダメージが最小限になるように心掛けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者への排泄介助時や入浴介助時などの誘導はさりげなく行い、一人ひとりを大切に、プライバシーを確保している。又、記録等については、事務所の鍵のかかる場所に保管している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出時や入浴後の衣類の選択、行事食等のメニューの選択などなど、極力、利用者の希望を活かせるように心掛けている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月次の行事の他は、ショッピング、入浴、散歩、喫煙、飲食等、極力、利用者の希望に沿うように心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	年2回の理美容ボランティアを利用したり、職員が適宜、散髪や毛染めの希望に応じて行っている。又、髭剃りや爪切り等については毎日気を付けている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に応じた役割分担をしてもらいながら、食事の準備(野菜洗い、皮むき、下ごしらえ)、盛付け、配膳、後片付け(下膳、食器洗い・拭き)等、無理のない範囲で作業してもらっている。又、本人希望の調理法も考慮している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的には、本人の希望に沿えるよう支援している。おやつは手作りのおやつを提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄結果を記録し、それに基づき、昼夜共に誘導している。基本としては、自力にて排泄できるよう支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、昼間、夜間と、利用者の希望の時間や体調に合わせて、入浴支援を行っている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の睡眠状況についてはほぼ把握しており、極力、薬剤を使用せずに安眠できるように心掛けている。しかし、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、足浴で心をリラックスしたりしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、職歴、趣味等を把握し、日々の生活に活かしていけるよう心掛けている(畑仕事、散歩、編物、折り紙、読書、台所手伝い、居室掃除等)。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には職員確認のうえ、自己管理をしてもらっている。その他、ショッピングの時にお金を渡し、支払いが出来るよう支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中の取組みとして出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず本人の希望により、ショッピングに出かけたり、散歩や園外活動、季節の花見物等、その時々に応じ対応している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	極力外出できるように心掛けている(個別、もしくは数名一緒に)。家族のいる利用者は家族付添いで外出されている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望する時には、電話したり、便りが出来るよう支援している。	○	もっと積極的に便りの遣り取りが出来るよう努めていきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や友達など馴染みの人々がいつでも訪問できるよう、又、ゆっくり過ごせるよう心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本来、拘束のないケアに取り組んでいるが、やむを得ず、拘束を行わなければならない状況になった場合は、身体拘束マニュアルに従って、家族や本人より同意を得て実施するようにしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	誰もが自由に出入できるように日中は開放し、夜間帯のみ施錠している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、所在確認や様子観察を行っている。又、外出傾向のある利用者に対しては、毎朝着衣の確認を行ったり、スリッパや靴に連絡先を表記している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な刃物類は利用者の目の届かない場所に保管、洗剤類は鍵付きの倉庫に保管している。裁縫道具等は針などを利用者と共に確認し、保管管理している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルに基く勉強会で基礎知識を習得できるようにしている。事故発生時やヒヤリハット発生時にはその都度、再発防止対策の検討を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命訓練を年1回行っている。又、定期的に急変時の対応の仕方についての勉強会も行っている。正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月毎に防火訓練を併設施設と共に行っている。外部へ通報できるサイレンを設置し、緊急時には地域の人々の協力を得ることが出来るようになっている。	○	職員全員が自信を持って対応できるよう、繰り返し訓練を行っていきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態変化時には家族にその状態を伝え、今後のケアの仕方について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定により、利用者の平均バイタル数値・健康状態を把握しており、体調変化時には速やかに対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服用している薬を仕分けし、確実に服用できるようにしている。又、職員全員が薬に対する理解を更に深めるよう勉強会を行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、食物繊維の多い物の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い便秘予防に努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の口腔ケアは習慣化しており、能力に応じた支援で清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のBMI値、アルブミン値を測定し、本人の身体状況に応じた食事提供を行っている。又、水分摂取量も記録をとって把握している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルに基く予防対策について勉強会を行い、感染対策用品を居室や事務所に用意している。又、職員は出勤時、退勤時、外出時には手洗い、うがいを実施しており、利用者の手洗い、うがいも支援している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やまな板は毎日漂白を行っている。冷蔵庫は週に一度清掃を行っている。又、月に一度賞味期限の点検を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や玄関先に植木や花を置き、馴染みやすく気軽に入りやすい雰囲気になっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いホール、ウッドデッキがあり、日中の強い日差しは、レースのカーテンやすだれで遮光し、採光や換気に配慮している。又、ウッドデッキには季節の草花を置いている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方ができ、又、仲の良い利用者同士でおしゃべりを楽しんだりすることが出来る場所を確保している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品やレクリエーションなどで作った物などを居室に置くことで、安心感や居心地の良さを感じてもらえるようにしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室内に換気扇やエアコンがあり、備え付けの乾湿度計にて確認し、室内の温度、湿度の調整を行っている。又、利用者に確認を取りながら、窓の開放・換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内の工夫としては、バリアフリー、要所への手すりの設置、4ヶ所に分散されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用の浴槽等がある。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口に、一人ひとりの個性に合せた手作りの表札を設けたり、トイレの扉に判別しやすい色をつけたりしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園で野菜を育てたり、収穫を楽しんだりしている。又、ウッドデッキにて花を育てたり、ラジオ体操をしたり、お茶を飲んだりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は家庭的な雰囲気大切にするために”木の温もり”を重視しました。玄関周囲の職員手製の竹垣や植木の配置、木製の床・廊下・調度品、更に和室やウッドデッキを配置し、皆様の寛げる空間を作り出しています。事業所の脇には畑があり、四季折々の野菜を育て、収穫を楽しんでいます。天気の良い日には園外散歩を楽しみ、野の花を摘んだり、又、車でちょっと足を伸ばし、桜・梅・藤・菖蒲の花見や秋には紅葉狩りなどを楽しんでいます。ショッピングは近所のスーパーや馴染みの店で適宜行っています。行事としては年初の初詣から年末のクリスマス会・餅つきまで暦にあわせ企画しており、更に併設の特養ホーム福智園の行事にも参加したりして、変化のある毎日を送ることが出来るように工夫しています。又、急病時に備え、協力病院や福智園の看護師とも連携を取れる体制にしており、安心できる居宅生活を送れるよう体制を整えています。更に、地域にある児童公園の草取り、清掃を行い、地域の人々との交流を図れるようにしています。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所が目指すべき事項（人権尊重、能力発揮、地域交流）を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、終礼、その他諸会議において、利用者一人ひとりに対し理念を活かす為には、どのような対応をしていけばよいか、皆で考えている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や諸行事を通して、地域の代表者の方々と地域との交流をどのようにすればよいかを検討している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近接して民家がなく、日常的に声かけ出来る状態ではないが、行事や散歩等で顔を合わせたりした時は、気楽に声を掛けている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に参加するには体力的に無理なこともあり、自分たちのペースで出来る児童公園の草取り・清掃等を通し、地域の人々との交流のきっかけとしている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や諸行事を通して、地域の代表者の方々と地域との交流をどのようにすればよいかを検討している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の機会を通しながら、事業所にある問題点の把握に努め、改善に取り組んでいる。外部評価の意義や目的を職員へ周知している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催し、忌憚のない意見を出してもらっている。会議の議事録は職員や面会に見えている家族の方に内容を確認してもらっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ推進委員と交流したり、町や社会福祉協議会の主催する地域連携のサポート会議に出席し、勉強会を通してのサービスの質の向上や精度への対応を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	折に触れ、地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員間で話し合いを行っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場内専門委員会を通じて得た対策等をミーティングで話し合い、高齢者虐待防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者個々の不満・苦情はその都度聞き、 改善に努めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族が定期的に来られる方にはその都度、 遠方にて来られない方には定期的に又体調が 変化した時に、電話にて細かに報告を行って いる。預っている小口の金銭等については定 期的に家族や本人に報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないが面会時に、家族 との面談の中で意見交換をしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	特に定めていないが、機会あるごとに職員 と様々な問題について話しあっている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	緊急時には対応できる連絡体制をとってい る。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には全ての職員が全ての利用者に対 応できるようにしており、離職時等のダメ ージを最小限にするようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等問わないようにしている。又、職場では職員の特性に応じた役割分担を心掛けており、基本姿勢として、定年まで働いて頂くようにしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部講師による人権教育は行っていないが、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、専門委員会、ケアカンファレンス、朝礼、終礼等を通して行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの経歴、職務能力に応じた年間職務目標を管理者、職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた研修を適宜確保している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町・社会福祉協議会主催のサポーター会議やグループホーム協議会等に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスチェック表によりストレス状況を確認し、状況により面談を行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度により、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときは、まず本人の話しやすい状況や雰囲気を作ることに心掛けている。そのうえで思いや不安をじっくり聞き、本人の置かれている状況を理解するようにつとめている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときは、まず家族の話しやすい状況や雰囲気を作ることに心掛けている。そのうえで家族の置かれている状況や困っていることを聞き、今、必要としているものは何か、共に考えていくことに努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所の紹介を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	極力、事前に本人に訪問して頂きゆっくりした時間を過していただけるようにしている。そのうえで本人の意思の下、入居して頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴からできる事や得意な事を見出し、本人が出来る力を発揮できるように支援している。又、一緒に食事をしたり、調理をしたりして共に生活を送ることが出来るようにしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた際、本人の様子や日常の出来事、身体状況等を報告したりして情報の共有に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	”家族の最も大事な人を預っている”という基本的な考え方にたち、職員は双方を支える立場として、お世話させて頂くことを常に心掛けている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に参加していた地域の行事等に参加したり、電話や便り等で馴染みの人達との関係が途切れないように支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	本人の意思を尊重しつつ、居室での引きこもりが無いよう、食堂や和室、廊下やソファ等で他の利用者と過す時間を増やしたり、皆で音楽を聴いたり、本を読んだり、ゲームをしたりして、共に過すことが出来るよう支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり、関連施設へ転居された後も、面会に行ったりして継続的な関わりをもち、よりよい人間関係を保っている。		

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の生活歴、職歴、病歴、生きてきた足跡等を見出し、本人の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るよう心掛けている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの品物、アルバム等を手掛かりにして、本人や家族との話合いの中からこれまでの生活習慣や暮らし振りを確実に把握できるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼、終礼、ケアカンファレンス、介護記録等を通し、利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を全職員で情報交換をしながら把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望をまず聞き入れ、それに基づいて職員間で話し合い、様々な意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、必要に応じ、本人、家族、必要関係者と共に介護計画の見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子、ケアの実践状況、ADL（日常生活動作）、気づき事項等確実に記録するようにしている。又、職員間にて朝礼や終礼を通して情報を共有化しながらケアの実践や見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に応じて家族と相談しながら、早期の病院受診や定期受診を行い、安全で安心した生活が送れるよう心掛けている。又、利用者の要望に応じ、買い物（個別ショッピング）、バスハイク等にも応じれるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町主催の文化祭への作品の出展、書道、折り紙、理美容等、多くのボランティアの方々に支えられながら活動を行っています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向があれば、それに沿えるように心掛けている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や家族の意向があれば、それに沿えるように心掛けている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが入居後も本人にかかりつけ医があれば、基本的には、継続的に医療が受けられるようにしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医（精神科）に、必要に応じて相談に乗ってもらい、治療を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員や協力病院の看護師と連携を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、病院側に本人の普段の状況や特徴等を伝えたり、又、本人を励ましたりしながら早期退院に繋がるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、今後の方針について主治医や家族と話し合いをし、結果を職員間で共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の今後の方針については、家族、主治医と連携を取りながら対処している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は、本人の使い慣れた道具や馴染みの品々を持ってこれるようにし、環境の変化に伴うダメージが最小限になるように心掛けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者への排泄介助時や入浴介助時などの誘導はさりげなく行い、一人ひとりを大切に、プライバシーを確保している。又、記録等については、事務所の鍵のかかる場所に保管している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出時や入浴後の衣類の選択、行事食等のメニューの選択などなど、極力、利用者の希望を活かせるように心掛けている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月次の行事の他は、ショッピング、入浴、散歩、喫煙、飲食等、極力、利用者の希望に沿うように心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	年2回の理美容ボランティアを利用したり、職員が適宜、散髪や毛染めの希望に応じて行っている。又、髭剃りや爪切り等については毎日気を付けている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に応じた役割分担をしてもらいながら、食事の準備(野菜洗い、皮むき、下ごしらえ)、盛付け、配膳、後片付け(下膳、食器洗い・拭き)等、無理のない範囲で作業してもらっている。又、本人希望の調理法も考慮している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的には、本人の希望に沿えるよう支援している。おやつは手作りのおやつを提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄結果を記録し、それに基づき、昼夜共に誘導している。基本としては、自力にて排泄できるよう支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、昼間、夜間と、利用者の希望の時間や体調に合わせて、入浴支援を行っている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の睡眠状況についてはほぼ把握しており、極力、薬剤を使用せずに安眠できるように心掛けている。しかし、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、足浴で心をリラックスしたりしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、職歴、趣味等を把握し、日々の生活に活かしていけるよう心掛けている。(畑仕事、散歩、編物、折り紙、読書、台所手伝い、居室掃除等)		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には職員確認のうえ、自己管理をしてもらっている。その他、ショッピングの時にお金を渡し、支払いが出来るよう支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中の取組みとして出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず本人の希望により、ショッピングに出かけたり、散歩や園外活動、季節の花見物等、その時々に応じ対応している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	極力外出できるように心掛けている(個別、もしくは数名一緒に)。家族のいる利用者は家族付添いで外出されている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望する時には、電話したり、便りが出来るよう支援している。	○	もっと積極的に便りの遣り取りが出来るよう努めていきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や友達など馴染みの人々がいつでも訪問できるよう、又、ゆっくり過ごせるよう心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本来、拘束のないケアに取り組んでいるが、やむを得ず、拘束を行わなければならない状況になった場合は、身体拘束マニュアルに従って、家族や本人より同意を得て実施するようにしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	誰もが自由に出入できるように日中は開放し、夜間帯のみ施錠している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、所在確認や様子観察を行っている。又、外出傾向のある利用者に対しては、毎朝着衣の確認を行ったり、スリッパや靴に連絡先を表記している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な刃物類は利用者の目の届かない場所に保管、洗剤類は鍵付きの倉庫に保管している。裁縫道具等は針などを利用者と共に確認し、保管管理している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルに基く勉強会で基礎知識を習得できるようにしている。事故発生時やヒヤリハット発生時にはその都度、再発防止対策の検討を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命訓練を年1回行っている。又、定期的に急変時の対応の仕方についての勉強会も行っている。正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月毎に防火訓練を併設施設と共に行っている。外部へ通報できるサイレンを設置し、緊急時には地域の人々の協力を得ることが出来るようになっている。	○	職員全員が自信を持って対応できるよう、繰り返し訓練を行っていきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態変化時には家族にその状態を伝え、今後のケアの仕方について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定により、利用者の平均バイタル数値・健康状態を把握しており、体調変化時には速やかに対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服用している薬を仕分けし、確実に服用できるようにしている。又、職員全員が薬に対する理解を更に深めるよう勉強会を行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、食物繊維の多い物の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い便秘予防に努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の口腔ケアは習慣化しており、能力に応じた支援で清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のBMI値、アルブミン値を測定し、本人の身体状況に応じた食事提供を行っている。又、水分摂取量も記録をとって把握している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルに基く予防対策について勉強会を行い、感染対策用品を居室や事務所に用意している。又、職員は出勤時、退勤時、外出時には手洗い、うがいを実施しており、利用者の手洗い、うがいも支援している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やまな板は毎日漂白を行っている。冷蔵庫は週に一度清掃を行っている。又、月に一度賞味期限の点検を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や玄関先に植木や花を置き、馴染みやすく気軽に入りやすい雰囲気になっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いホール、ウッドデッキがあり、日中の強い日差しは、レースのカーテンやすだれで遮光し、採光や換気に配慮している。又、ウッドデッキには季節の草花を置いている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方ができ、又、仲の良い利用者同士でおしゃべりを楽しんだりすることが出来る場所を確保している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品やレクリエーションなどで作った物などを居室に置くことで、安心感や居心地の良さを感じてもらえるようにしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室内に換気扇やエアコンがあり、備え付けの乾湿度計にて確認し、室内の温度、湿度の調整を行っている。又、利用者に確認を取りながら、窓の開放・換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内の工夫としては、バリアフリー、要所への手すりの設置、4ヶ所に分散されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用の浴槽等がある。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口に、一人ひとりの個性に合せた手作りの表札を設けたり、トイレの扉に判別しやすい色をつけたりしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園で野菜を育てたり、収穫を楽しんだりしている。又、ウッドデッキにて花を育てたり、ラジオ体操をしたり、お茶を飲んだりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は家庭的な雰囲気大切にするために”木の温もり”を重視しました。玄関周囲の職員手製の竹垣や植木の配置、木製の床・廊下・調度品、更に和室やウッドデッキを配置し、皆様の寛げる空間を作り出しています。事業所の脇には畑があり、四季折々の野菜を育て、収穫を楽しんでいます。天気の良い日には園外散歩を楽しみ、野の花を摘んだり、又、車でちょっと足を伸ばし、桜・梅・藤・菖蒲の花見や秋には紅葉狩りなどを楽しんでいます。ショッピングは近所のスーパーや馴染みの店で適宜行っています。行事としては年初の初詣から年末のクリスマス会・餅つきまで暦にあわせ企画しており、更に併設の特養ホーム福智園の行事にも参加したりして、変化のある毎日を送ることが出来るように工夫しています。又、急病時に備え、協力病院や福智園の看護師とも連携を取れる体制にしており、安心できる居宅生活を送れるよう体制を整えています。更に、地域にある児童公園の草取り、清掃を行い、地域の人々との交流を図れるようにしています。